

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成28年8月12日(2016.8.12)

【公表番号】特表2015-529329(P2015-529329A)

【公表日】平成27年10月5日(2015.10.5)

【年通号数】公開・登録公報2015-062

【出願番号】特願2015-529067(P2015-529067)

【国際特許分類】

G 0 1 N	33/50	(2006.01)
A 6 1 P	1/14	(2006.01)
A 6 1 P	1/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/10	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 K	35/74	(2015.01)
C 1 2 N	1/20	(2006.01)
G 0 1 N	33/15	(2006.01)

【F I】

G 0 1 N	33/50	Z
A 6 1 P	1/14	
A 6 1 P	1/06	
A 6 1 P	1/10	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 K	35/74	A
C 1 2 N	1/20	A
G 0 1 N	33/15	Z

【手続補正書】

【提出日】平成28年6月15日(2016.6.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

腸運動障害の治療に有効な薬剤の選択方法であって、前記方法は、

a) 胃腸運動に対する前記薬剤の効果を分析するために、胃腸部において行われる時間(ST)マッピングの段階；及び

b) 腸間膜求心性神経発火に対する該薬剤の効果を分析するために、胃腸部において行われるエクスピボでの神経束記録の段階

を含む上記選択方法。

【請求項2】

段階a)におけるSTマッピングがビデオ画像によって行われ、及び/又は段階a)が、前記胃腸部における伝播性運動群(MMC)周波数及び/又は伝播性運動群(MMC)速度を測定するためにSTマップを用いることを含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

段階a)が管腔内圧の測定をさらに含む、請求項1又は2に記載の方法。

【請求項4】

前記管腔内圧の測定が管腔内ピーク圧(PPr)である、請求項3に記載の方法。

**【請求項 5】**

段階 b ) が、腸間膜求心性神経束の自然発火頻度を測定することを含む、請求項 1 から 4 までのいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 6】**

前記胃腸部が、空腸又は結腸のエクスピボ部である、及び / 又は前記胃腸部がマウス由来である、請求項 1 から 5 までのいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 7】**

段階 a ) 及び b ) が、薬剤の管腔内適用の前後で行われる、請求項 1 から 6 までのいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 8】**

前記薬剤が、全細胞、微生物、タンパク質、ペプチド、酵素、又は他の生物学的若しくは化学的物質である、請求項 1 から 7 までのいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 9】**

前記薬剤が、微生物である、請求項 8 に記載の方法。

**【請求項 10】**

前記薬剤が、細菌の菌株である、請求項 8 に記載の方法。

**【請求項 11】**

腸運動障害が、胃腸管を通る物質の通過時間を低減させることが望まれるものであり、段階 a ) において、前記薬剤が胃腸運動を増加させる能力を示し、段階 b ) において、前記薬剤が腸間膜求心性神経発火を減少させる能力を示す、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 12】**

段階 a ) において、前記薬剤が MMC 周波数を増加させ、又は MMC 速度を増加させ、又は管腔内圧を増加させる能力を示し、段階 b ) において、前記薬剤が疼痛シグナル伝達を減少させる能力を示す、請求項 1 1 に記載の方法。

**【請求項 13】**

前記薬剤が細菌の菌株であり、前記菌株が L G 3 4 5 A ( D S M 2 7 1 2 3 ) である、請求項 1 1 に記載の方法。

**【請求項 14】**

腸運動障害が、胃腸管を通る物質の通過時間を増加させることが望まれるものであり、段階 a ) において、前記薬剤が胃腸運動を減少させる能力を示し、段階 b ) において、前記薬剤が腸間膜求心性神経発火を減少させる能力を示す、請求項 1 ~ 10 のいずれか一項に記載の方法。

**【請求項 15】**

段階 a ) において、前記薬剤が MMC 周波数を減少させ、又は MMC 速度を減少させ、又は管腔内圧を減少させる能力を示し、段階 b ) において、前記薬剤が疼痛シグナル伝達を減少させる能力を示す、請求項 1 4 に記載の方法。

**【請求項 16】**

前記薬剤が細菌の菌株であり、前記菌株が L G 6 2 1 A ( D S M 2 7 1 2 6 ) である、請求項 1 4 又は 1 5 に記載の方法。

**【請求項 17】**

前記細菌の菌株が L G 3 4 5 A ( D S M 2 7 1 2 3 ) 又は L G 6 2 1 A ( D S M 2 7 1 2 6 ) である、請求項 1 から 1 0 までのいずれか一項に記載の方法によって選択される細菌の菌株。

**【請求項 18】**

前記菌株が L G 3 4 5 A ( D S M 2 7 1 2 3 ) 又は L G 6 2 1 A ( D S M 2 7 1 2 6 ) である細菌の菌株。

**【請求項 19】**

治療に使用するための、請求項 1 8 に記載の細菌の菌株。

**【請求項 20】**

腸運動障害の治療に使用するための、請求項1 8又は1 9に記載の細菌の菌株。

【請求項 2 1】

前記菌株が L G 3 4 5 A ( D S M 2 7 1 2 3 ) である時、該菌株が便秘又は疝痛の治療に使用するためのものである、請求項 2 0 に記載の細菌の菌株。

【請求項 2 2】

前記便秘が高齢患者若しくは妊娠中の女性における便秘であり、又は前記疝痛が乳児疝痛である、請求項 2 1 に記載の使用のための細菌の菌株。

【請求項 2 3】

前記菌株が L G 6 2 1 A 株 ( D S M 2 7 1 2 6 ) である時、該菌株が過敏性腸症候群の治療に使用するためのものである、請求項 2 0 に記載の使用のための細菌の菌株。